

ごごみ 日和 58

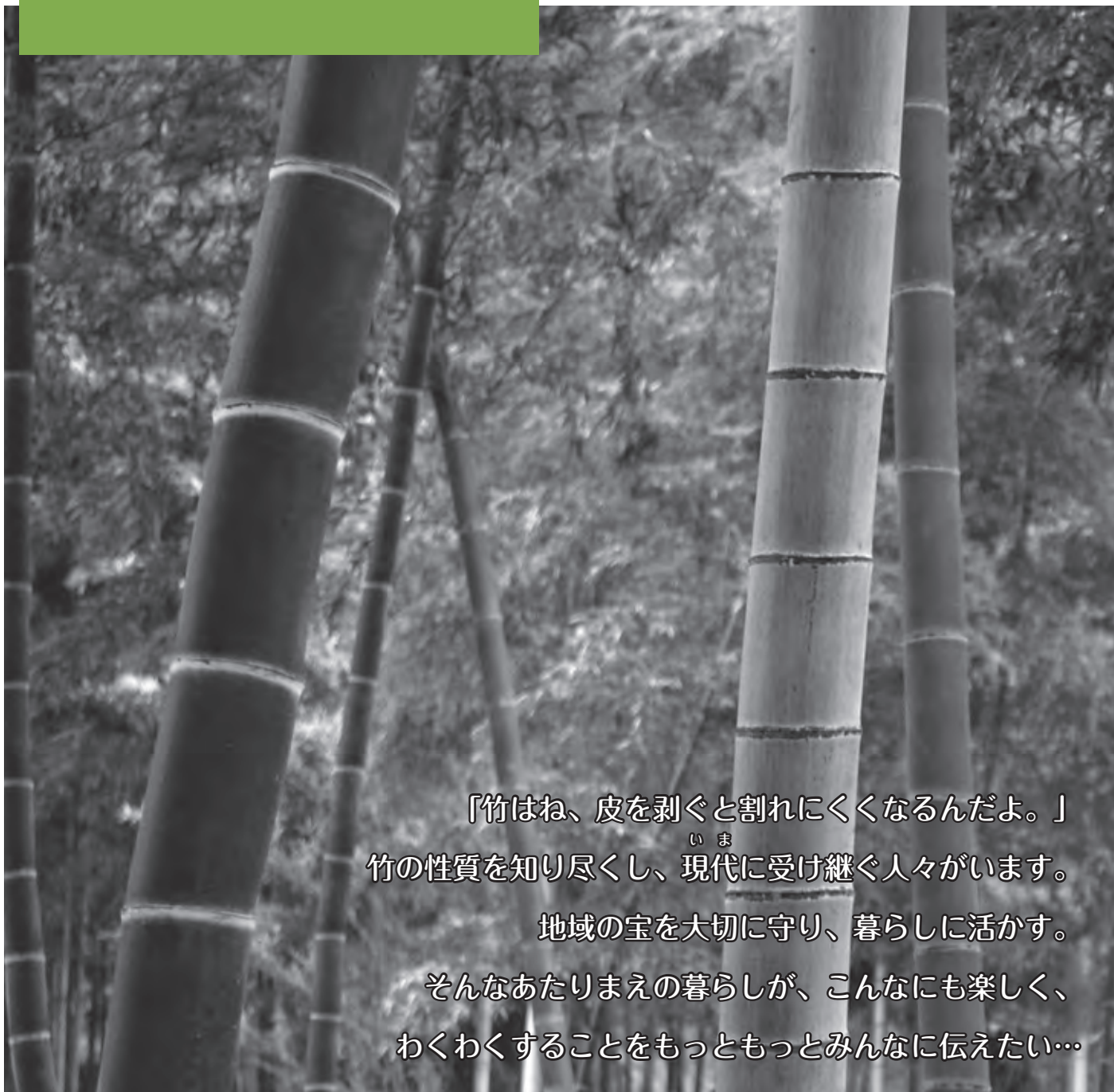
特集：美味しさ、安全に加え、“楽しい”暮らしを！
～『NPO法人 京都・深草ふれあい隊 竹と緑』の軌跡～

ごみ減会員さん訪問記「ごみ減の会員さんってどんな方？」：
株式会社カミッグさん

雑記帳：ごみ減の「モノ」語り 秤
これっているかしら？ 綿棒のケース

ごみ減 活動報告：
「ごみ減量リーダー養成講座」始まる！
ようきにへらそう！キャンペーンin右京区

地域活動レポート：地域力を結集し、ごみのない美しい町を
～竹間学区地域ごみ減量推進会議～



「竹はね、皮を剥くと割れにくくなるんだよ。」
竹の性質を知り尽くし、現代に受け継ぐ人々がいまいます。
地域の宝を大切に守り、暮らしに活かす。
そんなあたりまえの暮らしが、こんなにも楽しく、
わくわくすることをもっともっとみんなに伝えたい…

写真 藤田一美

「ごごみ日和」は、京都市役所、各区役所・支所のエコまちステーション、
京都市図書館、京都生協（市内店舗）などで手に取っていただけます。
最新号・バックナンバーもウェブで公開中！ <http://kyoto-gomigen.jp/>



手をとりあって ごみを減らそう！

京都市ごみ減量推進会議

🔍 ごみ減

検索

特集

美味しさ、安全に加え、 “楽しい”暮らしを!

～『NPO法人 京都・深草ふれあい隊 竹と緑』の軌跡～



いなりやま
稲荷山の南に広がる深草地域は、古くから竹の子の名産地。また、伏見稲荷大社や十二帝陵をはじめ、歴史遺産が数多く残る地域でもあります。今回は、深草の自然を守り、その恵みを活かした暮らしを次の世代へ伝える活動を行っている『NPO法人 京都・深草ふれあい隊 竹と緑』の理事長 杉井正治さん、理事の河合紀子さんに、心も身体もわくわくする暮らし方の秘訣を伺いました。

竹の子の里、竹の恵みに感謝して

毎春、深草の竹林は竹の子掘りで賑わいます。杉井さんは、平成13年から地元の農家とボランティアの皆さんと一緒に汗を流しながら、深草の竹林を守る活動を続けています。「深草ふれあい農業体験教室」と名付けられたこの活動は、京都市産業観光局とも連携し、荒廃竹林の整備、

竹の子畑の管理作業、農道の整備、竹チップの堆肥を撒くなどの作業を、1年を通じて行っています。また、「資源を有効に活用したい」との思いから、仲間と共に炭小屋を設置し、竹炭と防虫効果のある竹酢液を作ることに成功。竹酢液を薄めて農作物の虫よけに使うなど、竹林の恵みを余すところなく活かしています。

「食」を暮らしの中心に

杉井さんたちは、平成18年に『NPO法人 京都・深草ふれあい隊 竹と緑』(以下、竹と緑)を設立。地元の幼稚園児から大学生まで、あらゆる年齢層を受け入れ、畑の土作りから収穫した野菜の美味しい食べ方まで、季節に合わせた体験学習を行っています。農園の運営や料理教室のプロデュースは主に河合さんの担当。「有機農法で元気に育った野菜は、それ自体の味がしっかりしているので料理はシンプルなものばかり。中には、間引いた大根や人参をさっと洗って、その場で“美味しい、美味しい!”と食べる子どももいるんですよ。野菜本来の味をしっかりと知ること、食に関心を持ち、食を大切にできる大人になって欲しいと願っています。」自分で育てた旬のものを食べる喜びは格別、とも語る河合さん。京都市が認定する「食育指導員」の資格も持っており、地域の保健センターや保育所などを中心に、食文化の伝承にも力を注いでいます。竹と緑では、



理事長 杉井正治さんと理事の河合紀子さん

平成24年から有機栽培を実践できる市民農園「風緑」*1も開園。野菜作りを通して、人との繋がりは益々強くなっています。

もの作りでも万能な竹

「風緑」の本拠地の2階天井からは、階下に向かって大風が掲げられており、その勇壮な姿には思わず息を呑みません。伏見人形をモチーフにした力強い絵は、京都市立伏見工業高等学校(以下、伏工)の生徒によるもの。大風の骨は竹製で、杉井さんたちが腕によりかけて作った思い出深い作品です。伏工の生徒たちが、竹と緑の活動に参加するようになって約10年。農園の手伝いや竹林の整備、竹炭作りに挑戦する中で、「生命と触れ合う喜び」や「作る楽しさ」を肌で感じ、土を触る経験が無かった生徒も逞しい若者に成長するといえます。ある日、伏工の卒業生から「竹を使った椅子を作りたい」という相談があり、かつての教え子の申し出に「竹のことをそこまで好きになってくれて本当に嬉しい」と杉井さんは満面の笑み。教え子と共同制作をした、世界に一つだけの椅子の座り心地は、しなやかなバネがきいていて、とてもリラックスできます。「若い、



「風緑」本拠地の大風

新しい発想で、竹の可能性が更に広がれば」と期待を寄せる杉井さん。竹と緑では、竹を使ったもの作り教室も開催しており、竹の紙すきや竹の灯籠「深草竹あかり」など、子どもから大人まで楽しめる内容が充実しています。

夢の実現に向けて

竹と緑では、月に2回、農園の野菜を朝市*2で販売しています。お客さんからは「びっくりするくらい美味しかった!」と評判も上々、「何よりの励みになりますね。」と河合さんの表情もほころびます。近い将来、自分たちの直売所を作るのが夢。自分たちの活動理念に賛同してくれる人



朝市の様子

を募り、地域で作ったものを地域で食べる「地産地消」をより活発化したいと考えています。深草地域には、環境保護と景観保全の願いを込めて、平成22年に設置された大岩山の展望台や、京都府の準絶滅危惧種に指定されている藤袴の原種を守る運動も根付いており、他団体と情報共有を図りながら、地域コミュニティの発展に寄与する竹と緑の取組みが注目されています。

平成23年には、炭小屋の隣に手作りのピザ窯も誕生し、イベントなどで大活躍しています。畑から食卓まで、美味しく楽しい暮らし方を提案し続ける竹と緑の“夢”は、地域の新たな希望として輝きを放っています。

特定非営利活動法人 京都・深草ふれあい隊 竹と緑

住所 ▶ 京都市伏見区深草坊山町41-10 炭小屋風緑内
電話&FAX ▶ 050-3376-3488
携帯電話 ▶ 090-2286-6972 (9:00~16:00)

*1: 市民農園「風緑」…詳細は090-2286-6972まで。

*2: 朝市…現在、第1・3火曜日午前10時から、JTB京都三条店前で朝市を出店しています。詳細は090-2286-6972まで。

松村香代子(平成25年11月25日取材)



「少しでも排出されたCO₂を酸素にかえることが、
自動車ディーラーのつとめ」

自動車ディーラー だからこそできる 社会貢献活動

株式会社カミッグさん

お客様の個人情報をあずかるお仕事をされている方にとって、悩みの種となっているのが「秘密書類（機密書類）」の扱い。個人情報や社外秘情報が記された書類の内容は、決して外部に漏れてはならない重要なもの。たった一枚の紙でも慎重に慎重を重ねて扱うことは事業者の命題。守秘を貫くことがお客様への義務であり、信用につながります。そして、うかつに表に出てしまった情報が、ときには事件を呼び起こすことさえあるのです。

このように使用期間を終えた秘密書類（機密書類）は紙ごみのなかでも特に取り扱いが難しいもの。とはいえ日々増え続ける書類は、いつかは処分しなくては、会社でごみで溢れてしまいます。そんななか、当会議が推し進める「秘密書類リサイクル事業」をうまく利用し、さらにごみを減らすため一丸となって独自の取り組みを行う、自動車関連会社があります。

焼却によるCO₂排出という課題を抱える膨大な量の秘密書類

株式会社カミッグは、京都マツダを前身とし、京都で50年以上もの歴史をいだけるカーディーラーです。国産車販売のマツダをはじめ、正規ディーラー権の獲得により、メルセデス・ベンツ、VOLVO、アウディ、BMW、MINI、フォルクスワーゲンといった輸入車を販売しています。さらに事業は取り扱い全車種の幅広いメンテナンスサービスや部品・付属用品の販売、中古車の販売、保険代理、海外輸出までに及んでいます。自動車に関することならほとんどのことをお任せできる、頼れる会社です。取材日にショールームも見せていただきましたが、憧れの名だたる高級車がずらりと並んでおり、しばしうっとり。目の保養になりました。

自動車を販売する過程には個人情報のあずかりが欠かせません。高級車や輸入車を扱うとなれば、顧客情報の守秘は最重要の責務です。書類が頻りに行き交うこのカミッグでは、保存年月を過ぎた書類をどのように扱っているのでしょうか。財務・経理・情報システム担当執行役員の大住拓哉さんと経理部の石澤桃子さんにお話をうかがいました。

「京都・奈良にあるさまざまな支店・事業所から私ども本社へ、毎日たくさんの書類が集まってきます。書類はたいへんな数にのぼります。3カ月で段ボールおよそ70箱分にまでなるのです。個人情報や社外秘資料ですから捨てるわけにはいきません。ですのでこれまでは我々が焼却場へ直接持ち込み、燃やしてい

たんです。しかしそれでは焼却処理の際にCO₂が排出されてしまう。頭を痛めていたのですが、『秘密書類（機密書類）リサイクル』の存在を知り、2011年から参加しています」

カミッグはこれを利用し、社外の目に触れることなく書類を他の紙製品にかえていたのです。

当会議の「秘密書類（機密書類）リサイクル」は、排出事業者（当会議の会員企業等）が秘密書類を段ボール箱に詰めたまの状態で、製紙工場へ搬入し、溶解槽に直接投入して、段ボール板紙に再生するという事業です。途中で段ボール箱を開けることがないため、秘密を保持したままリサイクルすることが可能です（*リサイクルに適さない紙等、事前の分別が必要です）。さらに紙自体を焼却するより、CO₂の排出を減らし、資源を有効活用することができます。



社員一丸となって街の清掃活動を行う

こちらカミッグではCO₂排出量の低減のみならず、さまざまなCSR（企業の社会的責任）に取り組んでおられるのだそう。そのひとつが、各支店で実施している社員による清掃活動。毎朝近隣の掃除をするほか、各支店・事業所が月に1～2回、朝7時半より、会社からおよそ半径500メートルの範囲を、社員さん自ら清掃をしているとのこと。

「私ども本社では、北の方なら阪急・京福電鉄『西院』駅まで、東ならリサーチパークまで、およそ30名で清掃をしています。台風や大雨のあとだと壊れた傘のごみが道路や歩道にたくさん落ちていて、収集の台車いっぱいになります。その数に驚きますね。放置していると美観を損ねるのみならず危険です。



排出されたCO₂を酸素にかえるために生まれた「カミッグの森」

もうひとつの大きな取組み、それは7年前から始めたという京都の森林再生活動。カミッグでは長岡京の西山にある森林0.65ヘクタールを借り、「カミッグの森」と命名。社員さんたちによる山中の竹の伐採など、森林再生と環境保全にいそしんでおられます。

「竹は繁殖力が強いので森の木々の間からどんどんどん生えてきて陽射しをさえぎってしまうのです。そしてそれが樹木の立ち枯れにつながり、大きな社会問題になっています。そのため我が社では京都モデルフォレスト協会へ参画し、各支店から2、3人、計20人ほどが毎月交代で、竹を伐採しています（伐採された竹は森の土に還ります）。そうして森の木々に日光が行き渡るようにしているのです。森を再生する活動によって少しでも排出されたCO₂を酸素にかえることが、私ども自動車ディーラーのつとめだと考えています」



株式会社カミッグ

京都市右京区西院寿町に本社を構え、国産車、輸入車、中古車と多彩なブランドの自動車を幅広く扱うコンプレックス（複合する）ディーラー。各販売支店を統括し、その運営・管理を行っている。事業は販売のみならず取り扱い全車種の幅広いメンテナンスサービス、保険代理、海外輸出までに及び、「トータルカーディーリングネットワーク」という新しいスタイルを打ち出す自動車業界の先駆的ディーラーである。
URL: <http://www.kamig.co.jp/>

吉村智樹（平成25年11月14日取材）

会員さん募集！ あなたもごみ減の会員になりませんか？

京都市ごみ減量推進会議は、つながりや創意から生まれる様々な活動を展開することにより、ごみを減らし、環境を大切にしまちと、暮らしの実現を目指しています。市民、事業者、行政で取り組み、きっとできる！当会議では、ともに活動する会員を募っています。詳細は、事務局へ問い合わせください。TEL:075-647-3444

昔の生活は、おのずと持続可能なものでした。昔の道具（モノ）を通じて「その道具を取り囲む昔の人々の暮らし方を今に生かせないか」を考えるコラムです。

はかり
秤

京の町家はいわずもがな商家として存在してきた。商いと家庭の営みが同居する構造は秀逸の住まいの設計である。

写真は秤。ここに糸を乗せて売り買いの値段が付けられる。買い手と売り手が目の前の秤を見ながら相談、互いに納得の品定めが行われてきた。だからちょっと懐具合が寂しい時はその量を調節でき、無駄買いが無い。「今日は買われへんけどまた来るさかい残していてや！」のわがままを聞いてもらえる。すなわちお互いさま精神と信頼がそれを支える。現代は買い手と売り手の距離がとても遠くなった。「お客様第一主義」なんてキャッチフレーズを用いても、心が無ければ、あるいは社員に浸透していなければ、すぐに化けの皮がはがれる。偽装だの誤表示だのと世間で大騒ぎ。よく考えると、とてもおかしな話である。要は互いが見えていないのである。その関係修復の努力の先に、ごみ減量や社会への貢献、信頼しあえる「お互いさま精神」が芽生える。今のごみ問題、ちょっと予先を変えてみてはどうか。それがなかなか難しいと唱える人がいるから、ままならぬ。



▲京の町家に今でも鎮座するこの秤。どこか威風堂々としている。そこから見えるものがある。

みんなのビジョン創造研究所 大橋 正明

※今回を持ちまして本シリーズを終了することになりました。

同時に長年に渡り仕えさせていただきました編集長とライターの方の立場を辞することになりました。読者の皆さま、ありがとうございました。また、何かの機会にお会いできる日を楽しみにしております。今後とも「ごみ日和」を宜しくお願い申し上げます。

これってあるか？ 第3回 綿棒のケース

このコーナーでは、暮らしの中にある「なんとなく使っているけど、本当にいるのかなあ？」というものに注目して「これをやめれば、ごみも減るよね」というものを紹介していきます。

お風呂に入った後の綿棒タイムが至福の時という人を聞いたことはありませんが、たぶん、きつと、いや、必ず多いはず。そんな私も綿棒だいすき星人のひとりです。

使い捨て商品なので、そもそもごみを出さないように「発生抑制」を進める京都市ごみ減職員としては「耳に水が入らない方法」や「綿棒のリユース」を考えるべきかもしれませんが、残念ながら、うまい方法をまだ思いつきません。そこで、注目したのは、今回も容器です。

多くの方は、フタもついたプラスチックのケースに入った綿棒を買われていると思います。ケースだけで買って100円くらいしそうな立派なケース。綿棒がなくなった後、他に何か使えないかなと思いつつも、結局使い道がなく、リサイクルに回すしかありません。

このケース、家にあるものを量ってみると、なんと21.5グラムもあるじゃありませんか。メーカーさんももったいないと思ったのか、フィルムなどで巻かれた詰替用も売られています。これだと、フィルムの重さが2〜3g程度。ただ、売っているお店が少なく、もっと手に入れやすくなるとよいのですが…。



▲毎回、立派なケースがついてくる綿棒

齋藤友宣（事務局）

第二期
(26年1月~2月)
参加者募集中

「ごみ減量リーダー養成講座」始まる！

今年度、京都市ごみ減量推進会議 地域活動実行委員会では、地域ごみ減を中心に地域でごみ減量活動を行う団体やグループの方々と「ごみ減量リーダー養成講座」を開催しています。

第一期(11月~1月)の参加団体は16団体、75人。

「まずは自分たちが出しているごみや資源がどのくらいの量なのか」を実感するために、参加者には、デジタル式のつりばかりを1人にひとつ貸し出し、11月の1ヶ月間ごみ出しの日に袋ごと重さをはかっていただきました。

実際に1ヶ月間ごみの量をはかられた方々からは「袋ごと、吊ってはかればいだけなので意外と簡単だった!」「はかってみると自分が思っているよりごみを出しているものだと実感できた」といった感想をお聴きしました。

11月26日と29日には、家庭でのごみ減量行動の研究をされている京都府立大学生命環境学部准教授 山川肇先生にごみ減量につながる生活や買い物の仕方についてわかりやすく



講義いただきました。

これから、ごみ減量行動に取り組みながら1月末までごみをはかっていただきます。現在、1月末から開始する第二期募集も行っています。京都市内のごみ減量に関心のあるグループであれば、どなたでも参加いただけます。御興味がある方はお気軽に事務局までお問い合わせください!

ようきにへらそう! キャンペーン in 右京区 スーパーでの取組は、3月~予定!

地域(市民)とスーパーとの協働で、「野菜や肉・魚の包装の簡略化」「飲料容器を減らす取組」「レジ袋を減らす取組」など、容器包装を減らすことを呼び掛ける活動を実施してきた本事業。北区、東山区に続き、今回、右京区で取組を行っています。

現在右京区内に30数店舗のスーパーがあり、右京区地域ごみ減量推進会議の皆さんと、店舗に出かけ、実際の容器包装について、軽量化や、別段なくても良い包装について一緒に考えました。

そして、新たな取組として、スーパーでのレジ袋削減を進めるため、「エコバッグを忘れてきた」、「袋が足りない」といった方などが、いつでも使える『レンタルエコバッグ』を協力いただける店舗に設置し、自由に使ってもらおうと考えています。

この『レンタルエコバッグ』にするためのエコバッグを確

保するために、梅津児童館、安井児童館、西京極西児童館の3つの児童館で、右京エコまちステーションと一緒に「オリジナルエコバック作り教室」を実施しました。子どもたちに、2枚のエコバッグに絵を描いてもらい、一枚は子どもたちが使うものとして、もう一枚は「レンタルエコバッグ」としてスーパーに設置されます。

また、右京区民ふれあいフェスティバルにおいて、食品の売り方・買い方を変えれば、ごみが減るということを実感できるクイズ形式の展示を行い、併せてレンタルエコバッグ用に、「要らなくなったエコバッグの寄付」の受付を行いました。スーパーでの取組は3月~を予定しています。子どもたちがつくったエコバッグをスーパーに見に行ってもらえればと思います。

皆様、スーパーでのお買い物の際はぜひ、エコバッグをご持参ください。



地域力を結集し、ごみのない美しい町を

立ち上げて4年、充実した活動を展開

古着リユースを目的とした「フリーフリーマーケット」の開催をはじめ、移動式資源回収のモデル事業への協力など、積極的なごみ減量活動を実践する竹間学区地域ごみ減量推進会議を訪れ、川崎元彦会長に話を伺いました。立ち上げは平成21年、中京エコまちステーション（当時は中京まち美化事務所環境拠点）のサポートで、竹間保健協議会が母体となり、発足に至りました。わずか4年ですが、活発な活動を展開されています。その原動力はどこから来るのでしょうか。

御所の南西一帯に広がる竹間学区。北は丸太町通、南は二条通、東は高倉通、西は室町通と、東西に亘る地域は、日本の歴史的舞台ともなりました。この地には1,200世帯約2,200人が暮らしを営んでいます。番組小学校としての伝統を持つ竹間小学校の跡地には、平成11年「京都市子育て支援総合センター子どもみらい館」と「中京もえぎ幼稚園」が開設されました。子どもみらい館に併設された「竹間自治会館」とともに、地域の拠点となっています。



「有害・危険ごみ等の移動式拠点回収」の案内チラシを持つ川崎会長。(中京エコまちで)

子ども服限定「フリーフリーマーケット」が大盛況

地域ごみ減量推進会議といえば、まず使用済めんぶら油の回収。竹間自治会館前で毎月第2金曜日午後1時～3時の間、回収が行われています。ごみ減の会員でもあり、保健協議会会長も務め、いきいきサロンの運営の中心である竹村珠子さんが中心に世話役を担い、のぼりを掲げ、20リットル入のポリタンク2個を見守ります。7月15日に実施した施設見学会には20名がエコランド音羽の杜、東北部クリーンセンターを視察しました。



フリーフリーマーケット

特筆すべきは「フリーフリーマーケット」の開催です。昨年に引き続き、今年は2回目のマーケットを5月6日に開催。この日は、新生児や小学生低学

年、身長130センチまでの子ども服が会場となった「子どもみらい館」4階の一室に所狭しと並べられました。「新品同様のウェアやお宮参り用のドレスもありました」と川崎さん。不要とされ、集められた衣服は約1,500枚。多くの人が会場を訪れ一日中賑わい、約8割が必要とする人の元へ引き取られたそうです。この催しを実施するためには、衣服の収集管理、告知、設営、陳列などいろいろな工程や作業が欠かせません。竹間地域ごみ減量推進会議をはじめ、自治連合会や各種団体、そして中京もえぎ幼稚園・中京エコまちステーションとの「協働」により地域力が結集されたからこそ、成功へと導かれたのでしょうか。

安心・安全なまちで ありたいから、 まず、ごみ減量

この秋10月27日に開催された「中京区民ふれあいまつり」（会場：中京中学校）にも、中京区地域ごみ減量推進会議の一員として参画しました。当日は、飲食コーナーで導入されたリユース食器の回収から、ごみ分別の啓発・ごみ減量についてのアンケート調査を実施。ブースの運営は、市民（地域ごみ減）、行政（中京エコまち）、そして事業者（リユース食器のリース会社）の三者が協力して運営されました。これはまさしく、京都市ごみ減量推進会議がスローガンとして掲げる『手をとりあってごみを減らそう！』を中京区民が多く集う場所で実践されたことにはかなりません。



使用済めんぶら油回収に取り組む、竹村珠子さんと川崎会長。竹間自治会館前にて

当日の来場者は、ファミリーの参加が多かったのですが、分別への意識が浸透し、模範的なエコイベントであり、「ごみ減量推進会議の一員として環境活動への自覚を高めた」と、川崎さんは語ります。

今年度、京都市ごみ減量推進会議の事業である「ごみ減量リーダー養成講座」（第一期（11月～1月））には、竹間学区から7名が参加。ごみ減量への取組の姿勢が伺えます。

12月11日（水）には、昨年に引き続き、京都市がごみ減量対策として注力する「有害・危険ごみ等の移動式拠点回収」（於：竹間公園）に協力することになっています。川崎さんは「ごみのない美しい町」は、防災・防犯の基本であり、「安心して暮らせる竹間学区にしたい」と意気込んでいます。竹間学区地域ごみ減量推進会議の活動は、さらにはばたくにちがいありません。

森田知都子（平成25年11月5日取材）